



発行  
天理教本愛大教会

〒 453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
FAX (052) 461-4320  
〒 632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広報部

立教 182 年 活動目標

- 「恩報」の実行
  - 初参拝の推進と新ようぼくの丹精
  - 報恩感謝のおつくしの徹底
  - 若者にご恩報の心を伝えよう
- ◎ 名称が本年まで三人の修養科生(守護頂上)
- ◎ 報恩感謝別席団参の実施(6月23日・11月24日)

# 近づく婦人会本愛支部第91回総会 婦人会創立110周年に向け、 会員飛躍の時

天理教婦人会創立110周年の記念総会まで残り1年を切った現在、百万会員を目指す婦人会員の活動も佳境を迎えている。

婦人会本愛支部では、今月20日に第91回総会を開催する。この総会をきっかけに、本愛婦人会員の更なる飛躍が求められる。

婦人会本愛支部では現在、百万会員を目指し、また創立110周年へ向けて、「にをいがけ、おたすけが毎日の御用となるように」との目標を掲げ、各委員部、各会員が勇んで活動を押し進めている。

「ご恩報を念じ、<sup>まこと</sup>実のようぼくに育つ」との活動目標のもと、本愛の婦人会員

らも教理勉強や伏せ込み、理づくりにと、毎日真剣に取り組んでいる。

本愛支部総会は、会員一人ひとりが培ってきた信仰心を結集し、各自が改めて「ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となる」ことを目指して開催される。

当日は午前10時よりおつとめ・十二下りてをどり

**5月5日(日) ~ 12日(日)**

**本愛布教推進週間**

6/23 報恩感謝別席団参  
に向かって 布教活動に弾  
みをつけよう!

■ 会場 本愛大教会  
■ 実動時間 午後1時~3時  
■ 実動内容 戸別訪問  
神名流しなど

※事前の申し込みは不要です

勤められ、引き続き式典が行われる。また午後からは、白熊繁一先生(郡山大教会・中住分教会長)をお招きして、記念講演が行われることになっている。

その後は模擬店やバザー等が催される予定である。

この総会に一人でも多く

これらの行事も積極的に活用し、創立110周年へと勇んで歩ませていただく。

の婦人会員が集まり、一歩でも成人した姿を親神様、教祖にご覧いただき、お喜びいただきたい。

◇ ◇ ◇

来年の創立110周年に向けて、「天理教婦人会創立110周年 会員決起の集い」が国内外の会場にて開催される。期間は5月1日から9月16日まで。7月20日には本愛大教会を会場として開催される。また11月3日には、若い婦人会員を対象に、本会で「第29回女子青年大会」が開催される。

5月のこよみ	
入社祭	1日 午前10時
祭典終了後、教会長連絡会 よふき会例会	2日 午前10時
学生会例会	3日 午前10時
雅楽勉強会	5日 午前10時
月次祭	13日 午前10時
布教実修所	14日 午前9時30分
むつみ会例会	16日 午前10時
青年会例会	19日 午前10時
婦人会本愛支部第91回総会	20日 午前10時
女子青年例会	20日
こはる会例会	20日
本愛ようぼく錬成会	24日 午前10時30分
本部月次祭	26日 午前9時

# 特別企画 若者に信仰を伝えるために

## 青年会委員長が聞く 少年会・学生担当委員会の取り組み (上)

少年高齢化や情報化社会の進展で、子供たちを取り巻く環境は大きく変化している。新たに迎える令和時代も、子供たちの価値観の変容はスピードを増していくだろう。今年の大教会の基本指針の一つは「若者に「ご恩報じの心を伝えよう」。いま、若者に信仰を伝えるにはどうすればいいのだろうか。今回は特別企画として、少年会と学生担当委員会の責任者に、安藤吉人・青年会委員長が尋ねた。



**安藤** 少年会では、長く中断していた「こども会」を再開されましたね。狙いはどういった点にあるのですか。  
**出口邦郎・本愛団团长** 前団長の時に遡りますが、毎月の例会を再開する機会をずっと探っておられました。また、大教会の「教会長師弟育成プロジェクト」でも例会の必要性を指摘し

ていただき、時を同じくして、少年会本部からも「おとまり会」あるいは日帰りの「こども会」の実施が推進されたことから、再開に踏み切りました。狙いとしては、育成会長様から「ご恩報じの心を養うこと」と定めていただき、将来、教会につながる人材を育成できれば、という思いで進めています。

**安藤** 「ニコリンピック」は昨年から実施して、かなりの反響がありましたね。

**出口** スタッフに恵まれたことが一番だと思います。ちよつとした思いつきに委員が「ぜひやりましょう」と言ってくれ、部員の皆さんも、子供たちと一緒にとことん楽しんでくれていることが大きいと思います。  
**安藤** 学生担当委員会では「春の学生おぢばがえり」が実施されたばかりですが、振り返ってどうですか。  
**板山眞一・学生担当委員会**



**委員長** 何とか昨年より大勢の学生に参加してもらいたいという気持ちで進めてきたのですが、結果的には参加者が減りました。ただ、参加してくれた学生にはその事は全く関係ないことです。やはり全員に楽しんでもらうことに注力しました。そういった意味では、学生会の皆は非常によくやってくれたと思います。

### 脳の構造の変化

**安藤** どの会活動にも共通して言えることですが、参加者・会員が減少している原因はどこにあると思われるますか？

今、青年会本部でいろいろなデータを分析している

のですが、80年代を境に、日本人の脳の構造が変化しているという指摘が脳科学の分野でなされているんです。80年代以降、成長に必要な栄養価が足りていない子供はほほいなくなり、情報化社会が進展した結果、脳の前頭葉が縮小し、扁桃体が大きくなった。すると、物事を「良いか悪いか」よりも、「好きか嫌いか」で判断しがちになるそうなんです。

そうした視点からすれば、学生会のように皆で集まって何かをするという場が好きなのは来るし、嫌いな人は一切来ない。いくら親が言っても、なかなか難しい。それが正しいか否かではなく、そうした時代なんだ、ということ私たちが認識するということも大事だろうと思うんですね。  
**板山** そうした点で言えば、私の周囲を見ても、人付き合いの仕方が分からな

い子が多くなっている印象  
がありますね。学校から  
帰ってきたらずっとスマホ  
を見ていて、同級生とも交  
わるうとしない。自分の殻  
に閉じこもってしまうとい  
いますか。

**お道ならではの育て方**

**安藤** 生まれた時からスマ  
ホやパソコン、インター  
ネット環境がある世代をデ  
ジタルネイティブと呼びま  
すよね。

**出口** デジタル、というこ  
とで言えば、今期は少年会  
でも「winter」を始めまし  
た。その目的は、未信者の  
お母さんや、普段少年会活  
動にあまり参加しない親御  
さんに少年会はどんなこと  
をやっているんだらうと興  
味を持ってもらった時に、  
すぐに様子を見せてもらえ  
ることにあります。少年会  
活動を活発にしていくには  
やはり親の理解というのが  
必要なんですね。

私個人の考え方として

は、少年会活動は「楽しい」  
だけでは、だめだと思っ  
たんですね。それでは他によ  
り楽しいことが出てきたとき  
に、そちらの方へ行ってい  
まう。楽しいだけではな  
く、そこにやはりお道なら  
ではの子供の育て方、縦の  
伝道という考えがないと、  
いざれ教会を支えるようほ  
くには育っていかないの  
はと思います。

**安藤** そうですね。具体的

には「お道ならでは」とい  
うのは、どういったこと  
でしょう？

**出口** 「朝起き、正直、働  
き」でも、どんなことでも  
いいと思うんです。何か子  
供の心に残って、それがあ  
る時、「そういえばあの時、  
こんなことを聞いたな」と  
思い出してもらえること、  
いつか悩みができたときに  
心の支えになるようなこと  
を、今はその意味がわから  
なくても、伝えておく必要

があると思います。

**伝えるという信念を**

**安藤** 学生に対しては、教  
えを伝えていくうえで、ど  
のようなことが最も難しい  
と感じますか。

**板山** 大人に近づいている  
段階ですから、難しく感じ  
ることばかりですね。下手  
をすれば、信仰なんかいら  
ないとか、宗教自体を否定  
しかねない。

でも逆に言えば、何かを  
理解する力もついてきてい  
る世代でもあるわけです。  
だからこそ、伝える側がで  
きるだけ丁寧に、わかりや  
すく伝える努力が一番大切  
だと思います。

参加者の減少という点  
で、自分への反省の意味を



込めて申し上げれば、「お  
ちばに一緒に帰ろうよ」と  
いうこちら側の信念が、申

し訳ないことですが薄らい  
でいるのかもしれない。そ  
育成する側の努力がもつと  
求められているのだと思  
います。

**安藤** 青年会員層に向けた  
動きとして、青年会本部で  
は近年「働くようぼくの集  
い」を始めました。大きな  
企業の社長や芸能人、競馬

の調教師など、教えを信仰  
しながら各界で活躍されて  
いる方に共通しているの  
は、社会の中で迷ったとき  
に自分を正してくれるのが  
お道の教えであり、多くの  
場合、それは小学生、ある

いは学生時代にこどもおち  
ばがえりや教会で教わった  
ことだということなんです  
ね。やはり、幼いころに聞  
いたことというのが大事な  
んでしょうね。  
**出口** 時代の変化に対応し  
ていく必要性は痛感するの

ですが、なかなかついてい  
けないというのが実感です  
ね。

**安藤** ただ、私個人として  
は、良い時代になっている  
と感じているんです。凶悪  
犯罪の件数も年々減り続け  
ているし、「好きか嫌いか」  
にしても、「好き」を突き  
詰めた結果、羽生結弦や藤  
井聡太のようにずば抜けた  
才能を発揮する子もいる。

友人に、有名な小学校教  
諭がいるんですが、彼は「こ  
れまでの教育は平均的な人  
間をつくる教育だった。し  
かし、これからはある分野  
に長けた子供を育てる方向  
に変わりつつある」と話し  
ていたんです。

板山先生がおっしゃって  
いたような、人と関わるの  
は苦手な子でも、陽気ぐら  
しに近づけるような徳分を  
こちら側が何か見つけてあ  
げることが大切だと思う  
んです。

(以下、次号)

教理随想

言わん言えんの理を探る



ています。

「かわいとは、わが身さえ良ければ人はどうでもよい、わが子の愛に引かれ、食べ物、着物の好き嫌いを言わし、仕込むべきことも仕込まず、悪しきことも意見せずして、気ままにさせておくのはよろしくありません。また、わが身を思っ

八つのほこりの四番目は、かわいという心使いです。「人を可愛いと思う心がなぜほこりになるのか」と疑問に感じる人もいるかもしれませんが、教えの中では次のように説き分けられ

人を悪く言うのもほこりではありません。わが身わが子が可愛ければ、人の身、人の子も可愛いがらねばなりません」。これを読んで分かるように、可愛いと思う心自体がほこりなのではなく、自分や自分の子だけが可愛いと溺愛してしまう心がほこりと教えられています。たとえば、わが子が可愛いからといって、好きな食べ物ばかり食べさせていると、おそらくその子は大きくなっても栄養のバランスが悪く、偏った食事をしたことよって丈夫な身体には育たないでしょう。さらに、好き嫌いの気ままを押し通して成長した子は、自分中心のわがままな人間に

育ち、人からも嫌われることになってしまふ。また、辛抱することのできない人間になりやすいとも言えます。子供を可愛がる、つまりいいことをしているつもりでも、かえって子供をだめにし、また周囲の人々にも不愉快な思いをさせることにもなりかねません。やはり仕込むべきことは仕込み、悪いことは悪いと注意することが大切で、食べ物、着物をはじめとする物の好き嫌いなど、すべてを子供にの言いなりにするのは、かわいのほこりだと戒められています。

◆常に反省を怠らさず

また、タバコやゴミのポイ捨てなどは「わが身さえ

【第53回】  
我さえ良くばは心のほこり  
人に慈しみと謙虚さ忘れず

良ければ人はどうでもよい」という心使いの典型ですし、自分が何か失敗をしたときに、素直に失敗を認めて謝るといふよりも、誰それがあんなことをしたからこんなことになった、などと、つい人のせいにして失敗を正当化してしまうこともままあるのではないのでしょうか。それがたとえ事実であっても、自分を弁護するために人を悪く言うのはわが身かわいのほこりだとおっしゃっています。さらに、自分たちは家庭円満に楽しく愉快に過ごしているが、他人のことはそつちのけで、公共の場や乗り物の中でも人をかきのけ押しつけて、自分の家族や仲間だけは良い席が取れたと喜んでいふ。これもまた我が身かわいのほこりを積んでいる姿というべきでしょう。

しかも、誰しも「わが身わが子は可愛い」というごく自然な感情の赴くままに、ついつい積みやすいほこりがあります。わが身と他人、あるいはよその子供と自分の子供とを同じように可愛がることのできれば言うことはないのでしようが、そこまではなかなかできません。しかし自分の子供だけかわいくて他の子はどうなってもよいというのはいけません。常に謙虚さを忘れずに、相手の立場になって考えてみる。人の子供であつても尊重し、慈しむ心かけける気持ちが大切だと教えられています。日々ご恩報じを念じて布教や教会の御用に励む傍らで、「我さえ良くば」の心に陥っていないかと常に反省を怠らず、心に積もりがちなかかわいのほこりを払いながら人だすけに歩む姿勢が肝心であります。

### 布教実修所 始まる

立教182年度の本愛布教実修所入所式が、4月14日大教会神殿で行われ32人が入所した。

この実修所では、毎月教理講座やねりあいを通してお互いの信仰心を高め、布教実動や大教会内でのひのきしんを通して信仰実践を行う。

午前9時30分よりおつとめを勤めた後、大教会長が

挨拶。大教会長は「ご恩報じの形はいろいろあるが、親神様に一番受けとっていただけるのが、にをいがけおたすけである。皆さんがそれを実践していただいていることは、大きな親孝行になる」と大教会の活動方針に則つての布教活動を呼びかけた。

その後、実修生はを、の思いに沿えるよう、心勇んでにをいがけへと出発した。

### 陽春のもと 慶びの教祖誕生祭

#### 婦人会総会も盛大に開催

4月18日、教祖の221回目のご誕生日をお祝い申し上げる教祖誕生祭が、春のやわらかな日差しに包まれた親里で執り行われた。

午前10時、祭典が始まり、大亮様が祭文を奏上。続いてかぐらづとめ・十二下りてをどりが陽気に勤められた。

祭典後、大亮様は教祖殿に参進され、教祖にお祝いの言葉を言上された。

その後、本部中庭で恒例の「よろこびの大合唱」が開かれ、春空の下「教祖御誕生讃歌」など数曲が演奏されると慶祝ムードは最高潮に。本愛から帰参したよ

### 道の学生、春の親里に集う

春の学生おぢばがえりに本愛から 40人が参加

3月28日、「立教182年春の学生おぢばがえり」が開催され、全国各地からお道に繋がる学生が帰り集った。

これに合わせて本愛学生会でも、3月27日から28日の日程で団参を実施。教区からの参加者を合わせて40人

の道の学生がおぢばへ帰参した。

27日午前9時、大教会へ集合した学生らは、受付を済ませ全員で参拝。マイクロバス2台に分乗して、おぢばに向け出発した。

本部では、三殿を参拝し詰所へ到着。早速、詰所の講堂でオリエンテーションとウォーミングアップのレクリエーションを行った。夕づとめ後は、恒例の前夜祭が東西泉水プール前で催され、本愛からも模擬店を出店した。

翌28日の大会式典終了後には、詰所で「直属アワー」が行われ、教区からの参加者も交えて、本愛の学生同士が親交を深めた。

また本愛学生会の新委員長に出口慎治さん(本正道)が、副委員長には長尾健さん(本西部)、水野祥吾さん(本正行)、梅田真史さん(本金山)がそれぞれ任命を受けた。

### 「令和」の時代が始まった。

「令和」という元号に違和感を感じるという声も聞くが、それは「平成」でも感じたことだし、「昭和」や「大正」のときにもあったに違いない。むしろ「昭和」と一文字共通する分、「令和」には違和感が少ないと感じる人も多いのではないか▼

共通する部分はそれだけではない。予定されている東京オリンピックや大阪万博は、それぞれ「昭和」を象徴する一大イベントでもあった▼とはいえ「昭和」も単に「古き良き時代」だった訳ではない。その前半は戦争の時代であったし、その後は冷戦の時代だった▼「令和」を「昭和」に重ねるのは、未来を過去で縛るようなもの。せつかくの新しい時代、つい口をついて出そうになる「あの頃は良かった」は慎みたいと思う。

修養科生教養掛

第933期

1月 桑子 彰(本穂)

安井 理恵(本海部)

2月 板山 眞一(本濱松)

瀧 佳代(本孝心)

3月 加藤 忠(本美咲)

河村 静代(本善徳)

右の各氏が教養掛を務めた。

修養科第933期修了者

本良心 長良 英男

本喜愛 岡野 行喜

本一宮(本尾州) 山内祐未加

以上3名

会長就任奉告祭

本晃分教会(野田正樹会長)では、4月21日午前11時より、大教会長夫妻、安藤吉人氏をはじめ、世話人・安藤正二郎役員ら多数の来賓を迎え、五代会長就任奉告祭が賑やかに執り行われた。

3月の中席者数

(4月20日提出分まで)

本心 1 本尾愛 1

本道橋 1 本美郷 2

以上5名

3月の初席者

本濱松 古橋 頂樹

古橋 由美

以上2名

安井鐵郎氏(本海部分教会三代会長)

4月14日に出直された。

享年91歳。告別式は4月17日午前11時30分より、世話人・大倉八郎役員を齋主として執り行われた。

若いお父さん・お母さんへ

家族ぐるみで  
教会へ  
参拝しましょう

婦人会・青年会・少年会からの提唱

大教会日誌

平成31年3月25日～平成31年4月24日

3月

25日 修養科志願者面接(於・本愛詰所)

26日 本部月次祭

27日 春の学生おぢばがえり(28日まで)

31日 常任役員会議◇役員会議

4月

1日 入社祭

祭主・大教会長 扨者・出口順英、山神茂彦  
指図方・板山公司 賛者・塚原光男、久保眞樹

◇おたすけ講話—長尾 誠

◇教会長連絡会

2日 よぶき会例会

おつとめ・十二下りてをどり、連絡会

6日 女子青年例会

おつとめ、ひのきしん、着付け勉強会

7日 青年会例会

おつとめ、各会合同レクリエーション

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・松原友治、和光重男

指図方・出口道男 賛者・吉田清和、中島裕信

◇祭典講話—安藤正二郎

◇大教会長挨拶

14日 布教実修所開所式

16日 むつみ会例会

おつとめ、女鳴物練習

17日 こども食堂MOGU(参加者61人)

18日 教祖誕生祭◇よろこびの大合唱

教祖誕生祭総合団参(19日まで)

19日 天理教婦人会第101回総会(於・本部中庭)

20日 雅楽勉強会

21日 本愛こども会

おつとめ、おつとめ練習、ケーキ作り

こはる会例会

24日 本愛ようぼく練成会